

令和元年度 自然保護委員総会

第 43 回「山岳自然保護の集い」

宮城県石巻市「金華山大会」



(宮城県山岳連盟 村上美智子さん提供)

(資料編)

内容

平成 30 年～令和元年度活動概要について	1
自然保護指導員登録	7
各都県の活動報告	8

平成 30-令和元年度 自然保護委員会会議録概要

H30. 11. 15 11 月度委員会

- イ) 山岳団体自然環境連絡会報告
- ロ) ライチョウ会議出席について
- ハ) 第 42 回自然保護総会のプログラム及び作業分担について
- ニ) 指導員の手引き制作について

H31. 1. 12 1 月度委員会

- イ) 平成 30 年度第 42 回自然保護委員総会の報告・反省について
- ロ) 山岳団体自然環境連絡会
- ハ) 2019 年度計画について
- ニ) 自然保護指導員研修会開催について
- ホ) 指導員の手引き制作について
- ヘ) 奥多摩小屋について
- ト) 夏山リーダー育成講師のための講習会

H31. 1. 16 2 月度委員会

- イ) 平成 30 年度第 9 回自然保護研修会について
- ロ) 山岳団体自然環境連絡会
- ハ) 2019 年度計画について
 - 1. 自然保護指導員研修会について
 - 2. 常任委員研修会（韓国交流）について
 - 3. 2019 年度自然保護委員総会について
 - 4. 自然保護指導員出前講座について
- ニ) 山岳団体自然環境連絡会 2 月 25 日(月) 労山事務所
- ホ) 奥多摩小屋閉鎖問題について
- ヘ) 夏山リーダー育成講師のための講習会参加について

H31. 3. 14 3 月度委員会

- イ) 2019 年度計画の推進について
- ロ) 常任委員研修会改め国際山岳自然環境研修会（韓国済州島）の開催について
- ハ) 2019 年度自然保護委員総会について
- ニ) 2019 年度自然保護指導員研修会開催について

H31. 4. 18 4 月度委員会

- イ) 山岳団体自然環境連絡会
- ロ) 国際山岳自然環境研修会の推進について
- ハ) 2019 年度自然保護委員総会の計画について
- ニ) 2019 年度自然保護指導員研修会について
- ホ) 2019 年度自然保護指導員状況について
- ヘ) JMCA 事務所移転予定について
- ト) 奥多摩小屋に関する情報について

31. 5. 16 令和元年 5 月度委員会

- イ) 自然公園指導員年間活動状況報告書の提出について
- ロ) 2019 年度自然保護委員総会計画について
- ハ) 国際山岳自然環境研修会実施について
- ニ) 出前講座(福井岳連盟)開催について
- ホ) 山岳団体自然環境連絡会について

R01. 6. 20 令和元年 6 月度委員会

- イ) 2019 年度自然保護委員総会計画について
- ロ) 国際山岳自然環境研修会報告について
- ハ) 出前講座(福井岳連)開催について
- ニ) JMCA 事務所移転について
- ホ) 奥多摩小屋に関する情報報告について
- ヘ) ライチョウサポーター募集情報について

R01. 7. 15 令和元年 7 月度委員会

- イ) 自然保護指導員出前講座結果について
- ロ) 山岳団体自然環境連絡会参加について
- ハ) 令和元年度自然保護委員総会募集要項の発出について
- ニ) 協会規程に基づく委員会の構成について
- ホ) 2019 年度委員会の構成及び担務について
- ヘ) 2019 年度自然保護委員総会計画進捗について
- ト) 自然保護指導員の募集について
- チ) 委員会新事業（自然観察会）検討について

R01. 8. 22 令和元年 8 月度委員会

- イ) 山岳団体自然環境連絡会
- ロ) 植物観察会同行参観について
- ハ) ライチョウ保護の現状について
- ニ) 2019 年度自然保護委員総会計画について（第二報）
- ホ) クビアカツヤカミキリの情報について
- ヘ) 奥多摩小屋のマスコミ報道について

R01. 9. 26 令和元年 9 月度委員会

- イ) 2019 年度自然保護委員総会計画進捗について
- ロ) 総会準備作業の実施について
- ハ) 山岳団体自然環境連絡会

R01. 10. 26 令和元年 10 月度委員会

- イ) 10/10 宮城県岳連との打合せ報告
- ロ) 2019 年度自然保護委員総会について
- ハ) 総会準備作業
- ニ) 台風 15 号被害について

※月例で「開催の山岳団体自然環境連絡会（労山、JAC、JMGA、都岳連、HAT-J、山宝ク、JMSCA の 7 団体で構成）に委員を派遣し、情報交換を行う。

令和元年度自然保護委員会の構成

役職	氏名
主管理事	安藤武典
委員長	松隈豊
副委員長	西山常芳、堀江伸子
事務局長	小高令子
会計・指導員関係	猪狩ノブ
常任委員	田上正敏、手塚福寿、濱田伸、小林貞幸、岩崎繁夫
専門委員	廣田博、岡田博行、増田修、千葉弓子、湯浅達男、伊藤篤子

開催行事の概要**第 9 回自然保護指導員研修会**

- 開催日 平成 31 年 1 月 27 日（日）
- 場 所 オリピック記念青少年総合センター（東京・代々木）
- 参 加 53 名（首都圏加盟団体など）
- 概 要 自然保護指導員制度の仕組みについて説明のほか、「登山道は奇跡の道」演題に、環境省の徳丸久衛氏を講師に招き講演を拝聴。詳細を次ページに掲載

第4回自然保護指導員出前講座

開催日 平成31年3月2日(土)
場 所 茨城県北生涯学習センター(日立市)
参 加 38名(茨城県山岳連盟会員など)
概 要 JMCSAからの派遣講師2名により、講義Ⅰ 日山協自然保護指導員制度と指導員の役割講義Ⅱ 指導員基礎知識(自然公園、関係法令等)、講義Ⅲ 茨城県立自然公園等について説明、茨城県山岳連盟自然保護委員会から指導員募集について説明

国際山岳自然環境保護研修会

開催日 令和元年5月20日(月)～24日(金)
場 所 韓国(漢拏山国立公園・北韓山国立公園)
参 加 11名(首都圏加盟団体自然保護委員など)
概 要 韓国山岳会の曹東植(Cho Dong-sik)氏の案内で、韓国に於ける二つの国立公園、漢拏山国立公園と北韓山国立公園を巡検してきた。詳細を次ページに掲載

第5回自然保護指導員研修出前講座

開催日 令和元年6月30日(日)
場 所 福井県立クライミングセンター(福井市)
参 加 22名(福井県山岳連盟会員など)
概 要 JMCSAからの派遣講師1名により、新「指導員の手引き」をテキストに指導員制度を説明した。

関係団体との活動の概要

環境省(自然公園指導員)

- ◇ 自然公園指導員の推薦(平成30年度～令和元年任期で31名を受嘱)
- ◇ 自然公園指導員の年間活動状況報告を取りまとめて省へ報告
- ◇ 令和元年度自然公園指導員功労者(自然環境局長表彰)の受章1名

山岳団体自然環境連絡会(労山、JAC、JMGA、都岳連、HAT-J、山宝ク、JMCSAの7団体で構成)

- ◇ 月例の会合など
- ◇ プロジェクト活動(山の野生鳥獣目撃レポート、山岳自然環境セミナーなど)

日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会

- ◇ 「スポーツと環境会議」への参加・協力
- ◇ スポーツ環境専門委員会活動報告書への投稿協力

第 9 回自然保護指導員研修会の実施報告

平成 31 年 1 月 27 日 13:30~16:30、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、関東地区から 53 名が参加して第 9 回自然保護指導員研修会を開催したので概要を以下に報告する。

冒頭、岡田博行都岳連自然保護委員長から主管者挨拶があり、次いで、松隈豊委員長から主催者挨拶を兼ね自然保護指導員制度の仕組みについて説明を行った。そのあと、茨城、栃木、埼玉、東京、神奈川から自然保護活動の状況報告を、そして基調講演として、「登山道は奇跡の道」演題に、環境省の徳丸久衛氏から私人としての立場で 1 時間ほどのレクチャーを拝聴した。講演の概要は次に記載する。

(徳丸久衛氏講演の要約)

国民のほぼ 10 人に 1 人が山歩きといわれるほど、大衆的なレジャーの頂点として登山愛好者人口が膨らんだ。老若男女の域を超え愛好者が広がったことや外国人登山者の来訪もこの増加の要因となっている。これに呼応して顕著となった山岳遭難事故の増加も見逃せないが、ここでは登山道問題を焦点に話を進める。

この登山者増加によって、登山道をはじめとする山の施設の整備、維持管理は時代の推移に追いつかず最小限の手当に留まっていると言った問題に直面している現実としてある。多くの場合、登山道を辿って頂上を目指ことに登山の意味があり、登山道があつての登山という行為と言って過言ではない。この登山道は自ずと別世界の山岳自然へ誘ってくれる道であるから、これは、まさに「奇跡の道」と言えるであろう。したがって、我々はもっと登山道を敬い、その恩恵に感謝すべきもので、登山は今の時代単なる「遊び」ではなく、自然とのふれあい、心身の浄化、生きる力の増進など、現代人に必要な効能を兼ね備えた活動であろう。

次に登山の効用と計画的かつ積極的な登山道等整備の必要性について考察してみる。ただし、ここで論じる登山とは基本的に山を歩いて登る行為で、急峻な地形をロープやハーネス等の登攀器具を使用して登る行為や積雪期の登山についても除外をしておく。

登山の効用について、個人的側面と社会的側面を二つの面から列挙すると次の通りとなる。即ち、個人的側面として、①山の自然や景観を享受することによる感動、精神的保養、自然への畏敬など霊的教化、②山の自然や文化を学ぶ

ことによる知的教化、③負荷をかけて歩くことによる身体能力の向上、精神的修養、④自然の中における生活能力、技術の獲得、⑤行程、装備、行動等の計画能力向上、⑥他の登山者を思いやる心の醸成、マナーの獲得、⑦同行者のある場合は団体行動能力、協調性の向上、⑧危険の予測、対処能力の向上。次に社会的側面として、①国民の自然を大切にする心を醸成し、自然共生社会の推進に資する、②国民の健康を増進し活力のある社会の形成に資する（社会保障の削減にも貢献）、③国民の防災能力、避難能力の向上、④国民の相互補助精神の向上、⑤山岳宗教や歴史の学習を通じた文化意識の向上、⑥登山器具、携行食、衣料等にかかる産業の発展、⑦登山基地となる観光地、温泉地、交通拠点等の振興、⑧登山道の整備・維持管理やガイド業などの雇用創出、⑨外国人登山者の流入による新たな観光振興と日本のイメージの向上

従い、登山は国民がそれぞれ個人の資質に応じて可能であれば行うべきものであり、社会としてもそれなりのサポートすべきものであるし、登山道及びその付帯施設（標識、案内板、簡易誘導施設、鎖、ハシゴ、山小屋、避難小屋、トイレ、野営場、水場、休憩所等の整備、維持管理体制の確立は、計画性と積極性をもって早期に推進されるべき重要な課題であると考えます。また、登山道等の整備は、自然環境の保全に直接資するものであるともいえる。

以上の効用が考えられるにもかかわらず、登山道や関連施設の利用において、登山道等の管理者が明らかで、整備、維持管理が制度的に実施されている例が少ないわけではないが、それは日本全体の登山道等の、需要量からすれば「ほんの一部」と言えるのではなかろうか。また、これまで登山道等の整備にあたって適正な収容力という概念は適用されておらず、オーバーユースという問題が生じている山もある。

では、何が障壁なのかを考えると、概して次の項目があると考えます。すなわち、①責任者が曖昧であり、従って未執行の責を負う者もない、②いつまでに整備等をすべきか定められていない、③十分な財源、組織がない、④整備・管理者と登山者との責任論が不明確である、⑤整備・管理者にとってメリットが実感できない場合が多い、⑥整備に当たって適正収容力という概念が適用されていない。

これらの障壁を解消する政策として、「登山道法」的なルールの整備化が望まれる。総合的に実施するため、登山というものを正面から捉えた新たな法整備が最も合理的で効果的と考えられる。

ちなみに、スイス、英国、米国、ニュージーランドなど欧米諸国ではハイキングのためのトレイルの整備に関する法律が制定されている。米国の有名なアパラチアン・トレイル、パシフィック・クレスト・トレイルなどは「The National Trails System Act」に規定され整備・管理されている。

2014年の「国民の祝日に関する法律」の改正により、8月11日が「山の日」に制定され、新しい祝日（2016年施行）となった。同法によれば「山の日」は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」日とされている。この祝日の趣意が活か

されるためにも登山道等の充実は重要である。「山の日」は山を愛する人たちの強い意志が政府を動かして実現したものである。これに引き続き、次は登山にかかる法の制定を目指して、山岳愛好家、山岳団体、山小屋など登山施設の経営者、登山に関わる観光事業者、学識経験者、産業界、さらにはまた修験道をはじめとする山岳宗教団体など幅広い方々の一致団結と力強い活動を切に希望したい。そうなれば日本が、スイスにも劣らない、世界からハイカーの集まる、美しい山の国になる日も近いと確信するものである。

最後に「この『奇跡の道』への展開について多くの登山者のみなさんなどと一緒に考えて行きたい。」とし、氏はレクチャーを結んだ。

（文責 自然保護委員長 松隈豊）



熱心に聴講する参加者（左）、講師の徳丸久衛氏（右）

参考資料2

国際山岳自然環境保護研修会の実施概要の報告

自然保護委員会

2019年5月20日～24日の韓国に渡航して、国際山岳自然環境研修会（韓国に於ける山岳自然保護の交流会と巡検登山）に自然保護委員など11名が参加し、韓国山岳会の曹東植（Cho Dong-sik）さんの案内で、韓国に於ける二つの国立公園、漢拏山国立公園と北韓山国立公園を巡検してきた。

今回の旅程について、20日に成田発し、済州島で2泊にて漢拏山登山を、22日をソウルへ渡り、韓国山岳会訪問、23日に北韓山国立公園（白

雲台）へ登山で過ごし、24日に帰国してきたもの。

漢拏山国立公園の巡検（5月21日）

まず、漢拏山国立公園の巡検は、城板岳登山口から入山し、山頂の白鹿潭（ペンノクタム）を経て観音寺登山口に下山する18キロ程の長丁場を9時間かかりで踏破。白鹿潭の上を除いては、殆ど森の中に形成されており、森林浴を楽しみながら探訪した。下山路とした観音寺登山

口へのコースの耽羅（タンラ）溪谷の水場があり、澄んだ岩清水が印象であった。

漢拏山は、済州島も中央部に聳える韓国最高峰の漢拏山を擁し、1966年漢天然保護区域に、1970年に国立公園に指定された。そして2002年にはユネスコの生物圏保全地域に指定されており、2007年にはユネスコの世界自然遺産に登録されました。2008年にはムルジャンアヒル上がり算定火口湖湿地がラムサール湿地に登録されて保護管理されている。

下山後、観音寺支所長の金光鎮（Kim Kwang-jin）から漢拏山国立公園の公園管理の実情などを拝聴し、巡検を締めくくった。

島内の各所で、素朴なモアイ像をミニチュア化したような石像にお目にかかった。これは「トルハルバン（石のお爺さん）」という島の守り神でシャーマニズムの要素も含んでいるらしいが、ユーモラスでおっとりとした感じはこの島の性格そのものようでもある。それにしても一日快晴に恵まれて、かねてより気にかかっていた漢拏山登頂を果たせたのはラッキーだったし、気分も快晴だった。

CAC 韓国山岳会訪問（5月22日）

ソウルへ渡り、ソウル地鉄1号線に乗って、望月寺（マンウォルサ）駅で下車、韓国山岳会事務局を訪問した。この事務局は、北漢山国立公園の北東端にある道峰山（トボンサン）の東山麓にあって、道峰山のロッククライミングのゲレンデを背後に抱く立地となっている。前身が朝鮮山岳会という事で、事務所の書庫には日本語の蔵書も多く保管されていた。地下には人工ボードがあって、研修などに用いられているとのこと。

北漢山国立公園（5月23日）

北漢山国立公園の南部当たり、総称「三角山（サムガッサン）」と呼ばれる山峰で、白雲台

（ペグンデ 836m）をはじめ仁壽峰（インスボン 810m）、万景台（799m）の三峰からなる花崗岩のドームが聳えている。巡検はこれらの東面側にある三角山道洗寺から入山し。白雲台を越え、西面の北漢山国立公園登山口に至るコースを巡検した。

ソウル市内から無人運転の2両編成のソウル牛耳新設線（新都市交通方式）に乗車し、北漢山牛耳（ブッカサンウイ、Bukhansan Ui）駅で下車し、三角山道洗寺の参拝用シャトルバスでアプローチ。

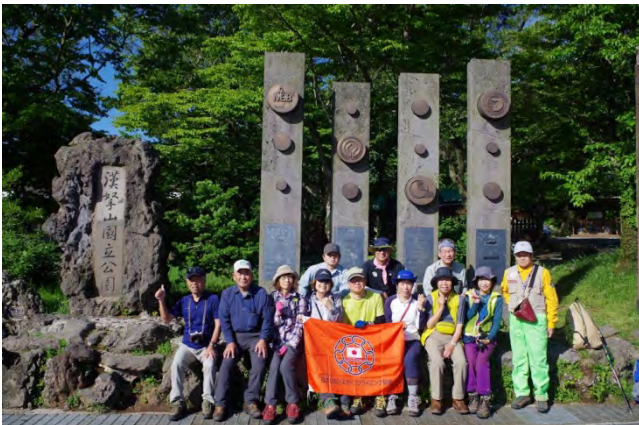
総称「三角山（サムガッサン）」と呼ばれる山峰で、白雲台（ペグンデ 836m）をはじめ仁壽峰（インスボン 810m）、万景台（799m）の三峰からなる花崗岩のドームが聳えている。巡検はこれらの東面側にある三角山道洗寺から入山し。白雲台を越え、西面の北漢山国立公園登山口に至るコースが今回の巡見。

三国時代以来2千年の歴史が込められた北漢山城をはじめとした幾多の歴史・文化遺跡と約100の寺院・庵子が散在しており多様な見どころと生態・文化・歴史学習場所を提供しています。春には花々が咲き誇り、夏には青々と茂った森や溪谷を堪能した。

雑感

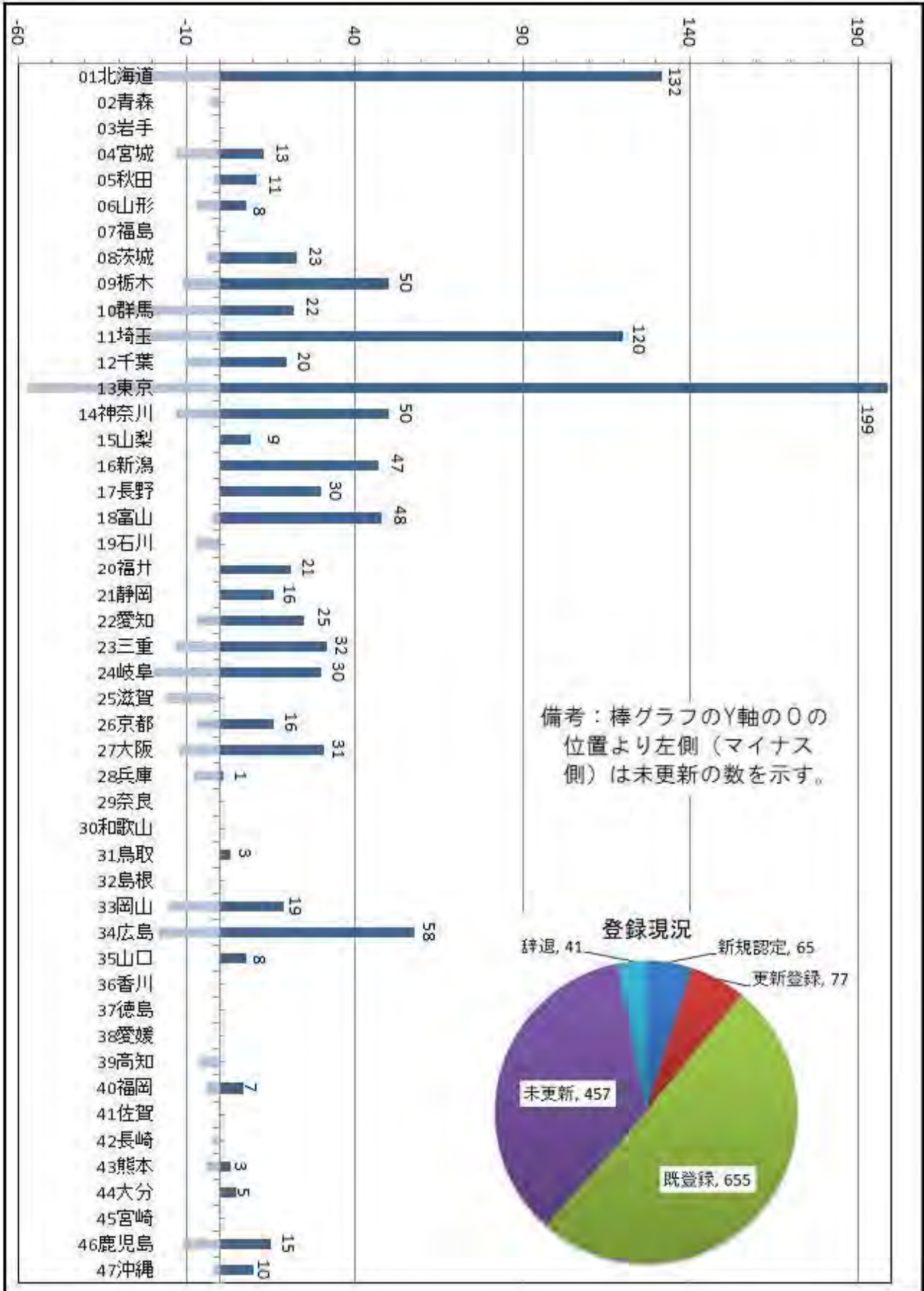
5日間の旅程で研修を行なったが、年間400万人の入山者があると いわれるのも納得できる幅広い年齢層の多くの入山者を見た。韓国的一般登山形態はハイキングやトレッキングといった軽度の登山で、主に日帰りが中心である。

韓国では自然休息年制度といって一定期間、人の出入り及び車の通行を制限し自然再生を推進しているという。また、実質的整備や管理は国立公園管理公団が行っており、漢拏山・北漢山など入山時刻の規制などのほか、コース案内表示などにその徹底ぶりを垣間見た。



自然保護指導員登録

令和元年10月末現在の自然保護指導員登録状況を下のグラフに示す。横軸0の位置を挟んで右側に今期を含め登録済みの数を、左側に未更新の数を示す。図中右下の円グラフは、既登録が全体の半数を占める。全体の3分の1を占める未登録は過去3年間を含んでの数で示している。



各都県の活動報告

報告書提出	参加都県	
	北海道山岳連盟	
	一社) 岩手県山岳・スポーツクライミング協会	
	宮城県山岳連盟	
08 茨城	茨城県山岳連盟	
	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	
10 群馬	群馬県山岳連盟	
11 埼玉	埼玉県山岳・スポーツクライミング連盟	
12 千葉	千葉県山岳連盟	
13 東京	公社) 東京都山岳連盟	
14 神奈川	神奈川県山岳連盟	
	山梨県山岳連盟	
16 新潟	新潟県山岳協会	
	長野県山岳協会	
	石川県山岳協会	
	愛知県山岳連盟	
23 三重	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	
28 兵庫	兵庫県山岳連盟	
31 鳥取	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	×
33 岡山	岡山県山岳・スポーツクライミング連盟	
34 広島	一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟	
	山口県山岳・スポーツクライミング連盟	

茨城県山岳連盟自然保護委員活動報告(2019年11月総会用)

2019年(令和元年)11月 茨城県山岳連盟 自然保護委員長 中沢隆一

1. 茨城県山岳連盟の自然保護委員の概況(R1-10/1時点)

- ・自然保護委員 合計29名(内1名は日山協自然保護常任委員)
内訳:岳連加盟28団体中8団体より29名、(うち、岳連の個人会員1名)。
- ・日山協自然保護指導員登録者 計24名:6団体より選出(H30から2名減)

2. 地域・活動概況

茨城県は県南に多数の登山愛好家で賑わう筑波山を擁し、県北の福島県境の八溝山(1022m)を最高峰に標高1000m未満の阿武隈山系と八溝山系の穏やかな山容に恵まれ、低山、里山のハイキングから、高鈴山系の霊山、御岩山の岩場のロッククライミング、竜神峡の本格的な沢登りまで小規模ながら、幅広い山行形態が楽しめます。茨城県の魅力度ランキングは最下位を継続していますが、雪の心配のない、海の見える里山が県内、近県の登山愛好者を集めています。

主要な活動として年2回の一般募集の清掃登山を開催しています。身近な里山の自然や山岳形成の歴史などを含めてジオパークに解説をお願いし、身近な自然に親しむ事で、登山愛好者が増え、併せて自然保護に興味を持って頂ける事を目指しています。

特記事項として、2019年、令和最初となる第74回国民体育大会が茨城県で開催され、鉾田市のスポーツクライミング競技で茨城県選手団が大活躍しました。茨城県山岳連盟から150余名の役員が協力しました。

3. 活動報告 (昨年度報告以降、実施済み:H30/11-R1/10、予定:R1/11-R2/3)

(H30年度)

3.1 日山協主催、第42回山岳自然保護の集い 中央大会(H30年度自然保護委員総会) 11/23-25(金-日)

埼玉県小川町 埼玉県立小川げんきプラザ 参加者3名(常任委員1、一般2)

3.2 筑波山清掃登山 12月2(日) 一般募集 紅葉の混雑が一段落した時期に毎年開催。

1)参加者と概況:岳連所属4団体、53名、岳連未加盟1団体2名、個人参加2名、

開催協力:筑波山地域ジオパーク推進協議会6名、合計63名

山麓の筑波山神社から御幸ヶ原に至る2コース(①白雲橋コース15名、②ケーブルカー沿いのコース48名)にて開催。今回から、つつじヶ丘経由のコースは時間が掛かる割に成果が少ないので短めとなる白雲橋コースに変更。歩行時間の短い②に希望者が集中したが2コースで開催出来た。

2)収集ごみの状況:登山道周辺のゴミは少なく全般的にはきれいである。落葉して遠くが見えたせいもあるが、遠くまで投げ捨てたペットボトルの類は収集が危険なので諦めた。分別した袋を5人で手分けしてケーブルカーで下ろし、処分を例年通り、筑波山神社にお願いした。

収集ゴミ状況:(1袋は約100×120cm 公称120L)

・空き缶、金属類、1袋、・ガラス瓶、ガラス屑 1/2袋、・可燃ゴミ 1袋、・ペットボトル 1/2袋

3)特記事項:昨年に引き続き、つくば市、及び筑波山地域ジオパーク推進協議会の後援を得て、コースの主要ポイントで筑波山地域の自然の解説を行って頂いた。

4)総括 好天まででは行かなかったが、登山道の泥濘・凍結は無く、穏やかな初冬の山の一日を楽しく過ごせて頂いた事を期待する。自然保護委員の参加人数が少なく、2コース63名、3班の役員編成が限界である。

3.3 自然保護委員出前講座 2019年3月2日(土) 一般募集 茨城県北生涯学習センター

日山協 自然保護委員会から松隈委員長と岩崎委員、田上委員を講師に迎えて一般募集の自然保護委員出前講座を開催した。

1) 参加者:一般募集を行い、合計40名

2) 状況など:

・自然保護指導員の制度、役割(松隈)、・指導員の基礎知識(松隈、岩崎)

・茨城県の自然公園について(田上)

の分担で、講演頂いた。日頃は聞く機会の少ない話題であり、今後の活動のヒントになったと思う。

(H31年～令和元年度)

3.4 神峰山・高鈴山清掃登山 4/21(日) 一般募集 桜の開花時期狙いで毎年開催。

1) 参加者と概況:岳連所属4団体、37名、茨城県北ジオパーク推進協議会7名、個人参加9名

合計53名(コース別:A(高鈴山)29名、B(神峰山-羽黒山)24名)

登山コースの投棄ゴミは少なく例年通りきれいである。高鈴山コースの途中の御岩山周辺は山麓の御岩神社の参拝客が多数登っており、山頂広場は混雑している。登山口の駐車場の周囲に大型の不法投棄ゴミがあったが、減少しており、今年はベビーカー1台が目立つだけだった。ペットボトルや空き缶は相変わらずあるが昨年よりきれいになった。

2) 収集ごみの状況:

・空き缶、金属類 1/3袋、・ガラス瓶、ガラス屑類 1/3袋、・可燃ごみ 2袋(各7割程度)、

・ペットボトル 1/3袋、・ベビーカー1台(駐車場)

(ごみ袋は約90×100cm、公称90L、翌日、日立市清掃センターに収集して頂いた)

3) 特記事項:例年通り日立市の後援が得られ、ジオネット日立(茨城県北ジオパーク)の共催により、コース上のポイントでジオパークの解説をして頂き、登山プラスαの楽しみ方を得る事が出来た。特にこの地域が舞台となった「ある町の高い煙突」(新田次郎原作)の映画化が完成時期で市民の話題になっていた。

4) 総括:春先から気温が低めで、満開は過ぎたが、散り残った山桜、オオシマザクラを楽しむことが出来た。曇天だったが、降雨に遭わず、穏やかな一日を楽しんで頂けたと思う。参加者が高齢化(平均年齢66.8歳)しており、コース選定が課題となりつつある。

6) 清掃登山終了後、自然保護委員会の総会を開催。前年の活動報告、今年度の予定等を打合せた。

出席者 12名

3.5 身近な水環境の全国一斉調査:県内の河川2地点でCOD、水温を調査 6/2(日) 参加 4名

全国規模のイベントに毎年参加し、測定結果を報告している。測定ポイントは鮎釣りの名所で釣り師は昨年より少な目で、7-8割。清流で濁りは無く、水量は少な目。橋上から魚影が見えた。

場所	水温(°C)	気温(°C)	COD(1/2/3)回目(mgO/L)
1)那珂川(千代橋左岸橋下)	21.5	25	0/0/0
2)久慈川(湯の里大橋右岸橋下)	20.5	25	3/2/2

昨年比 1~2 の変動はあるが、傾向として続くのか継続調査が大切と感じる。

(R1年度 今後の予定)

3.6 11/9-10(土-日):第43回 自然保護委員総会 山岳自然保護の集い 石巻市 金華山大会:宮城県

3.7 12/1(日) 一般募集:筑波山清掃登山

<活動状況紹介写真>

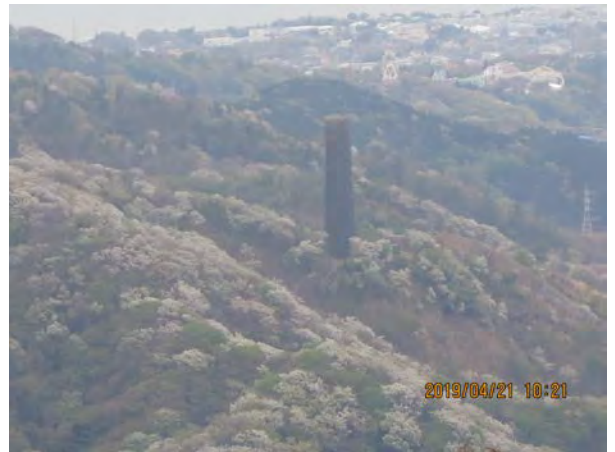
筑波山清掃登山



神峰山・高鈴山清掃登山



神峰山からの大煙突と桜遠望



令和元年度群馬岳連自然保護委員会事業計画

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

令和元年度重点課題

- ① 自然観察会(岳人ならではの観察会)の実施
- ② 日山協自然保護指導員有資格者の組織化と連携及び増員(拡大・強化)
- ③ 山岳地自然環境保護活動に必要な事業及び他との連携

月	日	行 事 名	場 所 ・ 会 場
4	9(火)	自然保護委員会総会	前橋山岳会例会場
5	14(火)	第1回 委員会	前橋山岳会例会場
5	11(土)	群馬岳連総会	
5	26(日)	群馬岳連自然観察会	赤城山粕川源流
"	"	群馬県春の環境美化運動	"
6	1(土)	尾瀬ごみ持ち帰り運動	大清水口
6	2(日)	群馬県春のクリーン作戦	赤城大沼湖畔
6	8(土),9(日)	ぐんま山フェスタ	群馬県庁
7	7(日)	谷川岳山開き・清掃登山	谷川土合口
7	9(火)	第2回 委員会	前橋山岳会例会場
8	11(土祝)	山の日イベントin谷川岳、21世紀の森まつり	みなかみ町、沼田市
9	10(火)	第3回 委員会	前橋山岳会例会場
9	16(月祝)、17(火)	ぐんま県境稜線トレイル調査	谷川岳周辺
9	21(土)～23(月)	上州武尊山スカイビュートレイルラン大会	武尊山周辺
9	28(土)～30(月)	日山協全日本登山大会	岐阜県高山市、下呂市
10	20(日)	県民登山大会兼群馬県秋の環境美化運動	稲包山、三国山
11	9(土),10(日)	日山協自然保護委員全国総会	宮城県石巻市
11	12(火)	第4回 委員会	前橋山岳会例会場
11	30(土)	群馬岳連忘年会	
		日光国立公園自然公園指導員意見交換会	栃木県日光市
1	14(火)	第5回 委員会	前橋山岳会例会場
		関東地区山岳連盟総会	
2	11(火祝)	自然保護委員会宿泊研修	湯檜曾温泉
3	10(火)	第6回 委員会	前橋山岳会例会場



群馬岳連自然観察会「赤城山粕川源流」1



同左 2



群馬県春のクリーン作戦 1



同左 2



尾瀬ごみ持ち帰り運動



同左 2



ぐんま山フェスタ1



同 左 2



谷川岳山開き・清掃登山1



同 左 2



上州武尊山スカイビュートレイルラン大会1



同 左 2



山の日イベントin谷川岳(昨年度)1



同 左 2



県民登山兼群馬県秋の環境美化運動(昨年度)1



同 左 2



自然保護委員会宿泊研修(昨年度)1



同 左 2

2018～19年度 埼玉県山岳スポーツライミング協会
自然保護委員会活動報告

《18.11～19.10》

○11/23 - 25 第42回 JMSCA 自然保護委員会指導員総会

『山岳自然の集い』小川中央大会に参加協力

参加者 22名

- ・次世代育成・山岳トイレ・登山道整備・稀少動植物の保全について意見交流
- ・基調講演では秩父岳連清水会長の『武甲山』石灰岩採掘の経緯、秩父地域の関わり、今後の武甲の採掘状況など貴重なお話を伺う。

○19.1/26 JMSCA 自然保護指導員研修会 東京オリンピック青少年研修センター

参加者 6名

都岳連指導員研修時に関東各県自然保護委員会活動報告を兼ねて受講する。

講演会 講師 徳丸久衛氏 演題『奇跡の登山道』 登山道法構想へ

○2/2 関東岳連総会 茨城県

自然保護委員会分科会

参加者 2名

- ・山のトイレ事情・トレランの現状 ・山でのドローン使用について 栃木
- ・環境保全 登山道整備やエコクリーンと云われる電力メガ開発について 埼玉
などが提起され審議される。

○3/24 第3回美里町カタクリ自然観察会 参加者 15名

回数を重ね3回目のカタクリ観察会ですが、自生地に来る登山道が一部崩壊のため迂回を余儀なくされましたが、これまでになく開花時期！また開花状況に恵まれ春の訪れを知らせる薄紫の花々に堪能しました。

○3/30 SMSCA 自然保護総会 北浦和カルタスホール 参加者 34名

恒例になりました総会時の講演会を開催。1月オリセン研修会での講師徳丸久衛氏をお迎えして、同題の演題『登山道法構想について』を聴講する。

山歩きの効用や健康志向の向上とともに登山者人口も著しく増加の一途を辿り、山岳事故の増加等より登山道整備、管理状況が問題視される様に至り、こうした状況を法施行による公的負担での維持管理の構想が提起されております。

既に各国ではナチュラルトレイルが法体制により整備管理されていると伺い、我々ハイカー、登山者一人一人の要請結束を以てして可能ではと有意義なお話を伺う事が出来ました。

○5/15～6/30 クリーン登山を実施

県下17山岳団体、延べ204名のご協力を頂き、クリーン登山を実施しました。登山道のゴミが少なくなり、綺麗になったと云われてから久しくなるが、今回の実施された各山岳会の報告から、かなり古くからの林業、山仕事での埋設ゴミ(暦年ゴミ?)に関する報告が見受けられた。

県下、私鉄による各山域へのイベントなどによる多くのハイカー、登山者の入山がみられるが、登山口までのアプローチ取り付け道路に、ポイ捨てなどによるゴミの報告がみられた。『ゴミを捨てない』『ゴミ持ち帰り』『市街地でのゴミ箱撤去』など拡く社会に周知されたマナーですが、更なる展開も必要でしょうか。

※6/21 『甲武信ヶ岳』長野山梨埼玉(秩父市・小鹿野町)ユネスコエコパーク登録

6月21日ユネスコエコパークに『甲武信ヶ岳』長野、山梨、埼玉(秩父市・小鹿野町)の山域が登録。県下秩父山域の再認識と新たな活動起点とならないものか検討中です。

。

○8/10-11 奥秩父自然観察会『甲武信ヶ岳』を実施

参加者 17名

エコパーク登録と『山の日イベント』を兼ねて自然観察会を実施。

主要河川の信濃川、富士川、荒川の分水嶺を巡検する。

イベント前夜祭では甲武信小屋 山中徳治氏撮影のビデオと高山植物の解説を伺う。10年前の撮影と伺い、現在は鹿食害!温暖化!等々殆どが見られなくなったとの事。翌朝山頂の式典では秩父岳連清水会長より、甲武信ヶ岳・秩父主脈稜線 エコパーク登録山域の説明を受ける。貴重な2日間を過ごす。

○10/26 自然保護指導員研修会 北浦和カルタスホール

総勢 25名

二年ぶりに自前の指導員研修講座を実施する。

講演講師には長谷川副委員長による演題『山の自然保護を考える』(山の大切さや魅力を学ぶ)。講師の自然保護に長い関わり持つ実践体験からの講演内容には非常にわかり易かった。当の指導員手引書研修に当たっては、講演内容に一部時系列で説明し易さもあつたが、時には本線逸脱気味の70分間喋くり! 反省することしきりに。他、埼玉県内での害虫最新情報を紹介して定刻を終えました。



千葉県における自然保護活動について

千葉県山岳連盟自然保護委員会

1 自然保護委員会事業報告

(1) 鋸山（南房総国定公園）及び富山（県立自然公園）等の植物調査

- ① 期 間 平成30年12月～令和元年10月
- ② 調査対象 千葉県レッドリスト植物など

(2) 鋸山及び富山等の植物調査及び稀少植物の報告

- ① 期 間 平成30年12月～令和元年10月
- ② 報 告 千葉県生物多様性センターへ
- ③ 報告対象 千葉県レッドリスト植物など
- ④ 報告植物 レッドリストの「ヒカゲツツジ」「アワチドリ」
「ノコギリヒゴタイ」「ハンカイシオガマ」などを報告

(3) 自然観察ハイク

- ① 場 所 津森山
 - 日 時 平成30年11月14日（参加者：7名）
 - 日 時 平成30年11月18日（参加者：4名）
- ② 場 所 富 山
 - 日 時 令和元年5月12日（参加者：8名）
- ③ 場 所 南房総国定公園内鶺原理想郷
 - 日 時 令和元年 6月22日（参加者：12名）
 - 日 時 令和元年10月15日（参加者：5名）

(4) 房総の山の巡見・清掃登山

- ① 期 間 12月～10月
- ② 場 所 南房総国定公園内など

(5) 県民ハイクにおける清掃活動及び啓蒙

- ① 日 時 平成31年1月27日
- ② 場 所 嶺岡山系

東京都山岳連盟自然保護委員会活動の記録(抄)

(期間 自2018年11月1日至2019年10月31日迄)

公益社団法人東京都山岳連盟(以下都岳連)自然保護委員会は、現在28名の専門委員により、約210名の都岳連傘下の自然保護指導員の協力の下、主として秩父・多摩・甲斐国立公園を中心に①啓もう活動、②山岳環境保全活動、③山岳環境調査活動、④委員研修・講習会の4つを柱に、年間20以上の活動を活発に行っている。

①の活動 ●高尾山クリーンキャンペーン

活動日 6月2日 毎年環境月間6月第一日曜日に開催。自然に優しい山歩きをアピールしながらの清掃山行

参加者数 101名(スタッフ込)

●自然観察会

活動日 4月21日(春版/青梅丘陵・赤ボッコ尾根) 5月25日(皇居東御苑樹木観察会/山の領域外での初の観察会が好評)

参加者数 26名 28名 (いずれもスタッフ込)

●おもしろ地球観察会 秋の観察会も兼ね、植物や野鳥観察に加えて日本列島誕生や暮らしの歴史を訪ねる初心向け地質、地学、歴史などの観察会。台風19号被害で開催が危ぶまれキャンセルもあったが、参加者には好評

活動日 10月27日

参加者数 29名(スタッフ込)



2019/6/2



終了後、参加者に感謝状授与



2019/4/21



2019/5/25



2019.10/27

②の活動 カタクリパトロール

パトロール期間 自4月13日～5月11日(カタクリ開花期に随時 延べ28名)

主な活動 シカ食害調査のためにコース上のカタクリ分布調査(緯度・経度で地点特定)、1平方メートル四方の定点観測地内のカタクリ株数カウントおよび保護のための看板設置(初日に積雪残り、保護柵は設置できなかった)



分布調査シート



山頂に看板設置2019.4.13



尾根に看板設置(〃)



食害にあったカタクリ

③の活動 ●全国一斉水質調査への参加(6月2日)

調査ポイント 御前山5ポイント、高尾山2ポイント

調査項目 1)測定時刻、2)天候、3)気温 4)水温、5)COD

*高尾山のポイントで数年に渡り水質悪化傾向あり、2018.11.18の再調査の結果も悪かったが、今年は平常値であった

●雲取山(東京都最高峰2017m)調査山行

調査日 12月8～9日、7月20～21日

調査項目 シカの食害による樹木の立枯れ状況、稜線上の廃屋となった小屋のチェック(周辺に3カ所)

雲取山荘の夏季のバイオトイレ、冬季の蛸殻トイレ、改修された避難小屋トイレの利用状況

●奥多摩小屋調査

調査日 2月2～3日、5月12日、7月13日、10月26～27日

調査項目 2019.3.31に閉鎖された奥多摩小屋周辺の環境を調査し、マスコミ等へも情報を提供、行政に働きかけを行いテントサイト・トイレ再建の道を探る



20128. 11. 18 水質再調査



再調査の結果(COD)



旧白岩小屋(2018. 12. 8)



旧雲取ヒュッテ (〃)



雲取山頂 (2019. 12. 9)



避難小屋トイレ (〃)



奥多摩小屋外観(2019. 2. 2 営業中)



閉鎖された奥多摩小屋 (2019. 5. 12)



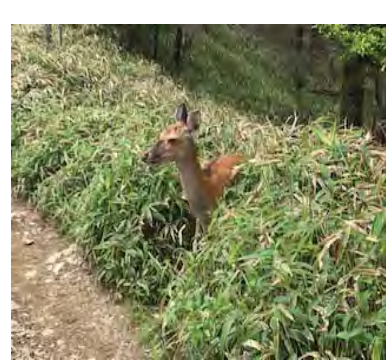
奥多摩小屋水場(2019. 7. 21)



台風被害を受けた水場



水場への通路(2019. 10. 26)



子ジカ(小雲取山付近 2019. 7. 13)

(2019. 10. 26)

④の活動 自然保護指導員の新規および更新のための研修および情報交換

指導員講習会 新規：机上4/17、実技4/20 新規3名 ガイド資格取得者1名計4名
更新研修・講演会 1/27(基調講演「登山道は奇跡の道」環境統計分析官徳丸久衛氏)
日山協自然保護委員研修会を兼ねる 53名参加(内一般16名)

専門委員の研修 委員研修 6/23 多摩森林科学園(講師：石井誠治氏) 11名参加
新専門委員研修会 7/29 5人参加

委員会HP作成・指導員通信・メルマガ発行

自然保護指導員向けに委員会の行事をお知らせし、山岳環境保全事業や研修会等への参加を呼びかける(HP更新随時、通信年2回、メルマガ随時)

等々



携帯トイレを紹介しています keitaitoile@gmail.com ()

●原則毎月第4火曜日に定例委員会を開催し、各種活動につき討議を行っている

詳細は(公)東京都山岳連盟HP 自然保護委員会から <https://www.togakur>

1. 委員会構成概要

自然保護委員会関係の構成概要は次表の通り。

構成名称	構成員数 (人)
自然保護委員会	5
自然保護指導員	66 (1 増)
環境省自然公園指導員	34 (1 減)
森林づくりボランティア活動実行委員会	10

2. 活動概要

1) クリーン活動

◆丹沢大山クリーンピア 21 活動 (各山岳協会・自然保護指導員・自然公園指導員が連携 通年)
 ゴミ持ち帰り運動に参加。平成 30 月年度分活動実績は次表の通り。

活動	実施回数	参加者数 (名)		回収ゴミ	
		男	女	可燃	不燃
H30 年度 (H30/4/1~H31/2/28)	29	178	38	64.9	27.3

※広沢寺岩場清掃集会 (広沢寺の岩場を守る会) への参加協力も行っている。



2) 自然再生活動

◆森林づくりボランティア活動 (通年 晩秋~春)

清川村の県有水源林の約 8ヘクタールを使い、県助成金をバックに森林づくりボランティア活動を実施している。
 放置され荒れた旧里山の林地を健全な森林に回復活動を実践した。(第 90 回~。年間 10 回予定)



◆登山道補修ボランティア (H30 年 12 月~)

神奈川県と H29~H34 年間の委託契約を締結し、丹沢大山国定公園内の登山道 (ヤビツ峠・大山線) の補修を実施。



3) 教育・研鑽活動

◆山の自然セミナー (H31/2/23~2/24)

第七回山の自然セミナーを県立山岳スポーツセンター及び丹沢ニノ塔にて1泊2日で開催。第一日目は県職(自然公園課・公園レンジャー)を講師に「神奈川県における自然公園事業と自然歩道など自然公園施設について」を聴講。第二日目丹沢大山国定公園内の登山道(ヤビツ峠・大山線)にて実習した。このセミナーは神奈川県の委託事業として実施。



4) 調査活動

◆水環境調査 (令和元年/6/2)

世界環境デー(6月第一日曜)の前後に全国的に行われる身近な水環境全一斉調査に参加。連盟では2012年から地域の山岳会が行っていたもの拡大継承し、神奈川県西部地区20地点の河川にて調査を行った。



5) 対外協力・啓発活動

- ◆丹沢大山自然環境再生委員会
- ◆丹沢大山ボランティアネットワーク
- ◆丹沢大山クリンピア21実行委員会 ボランティア活動
- ◆かながわ県民と協働による森林づくり実行委員会 定着型ボランティア活動

6) JMCSA 活動への参加

- 1) 自然保護常任委員の推薦派遣2名(湯浅達男、松隈豊)
- 2) 開催事業への参加
 - ◆国際山岳自然環境研修会(韓国)
 - ◆自然委員総会 山岳自然保護の集い
 - ◆自然指導員研修会(オリンピック記念青少年総合センター・予定)

7) 課題

- 1) 関係(官庁・民間地主)との調整(土地使用許可や委託契約・協議書の締結)など煩雑な事務作業への対応

新潟県山岳協会自然保護委員会活動報告（2018～2019年）

1. 自然保護研修会

第69回自然保護研修会

期日 2019. 5. 18～19

会場 新発田市滝谷「農村婦人の家」 参加者26名

講演 テーマ：「焼峰山山麓に生息する野鳥たち」

講師 高橋修一氏（野鳥親睦会会員）

内容 新潟県の低山帯に生息する野鳥種類と識別方法、生息環境その変化、保護について

フィールド研修 焼峰山山麓において探鳥会および焼峰山登山 参加者12名

第70回自然保護研修会

期日 2019. 10. 19～20

会場 妙高市池の平「青少幼年センター」 参加者20名

講演 テーマ：「火打山ライチョウ保全活動と植物調査、その結果と概要」

講師 竹内紀夫氏（新潟県生態研究会会員）

内容 妙高連峰に生息するライチョウの生態、生息環境とその調査の方法、結果
今後の保全活動の課題、展望など

フィールド研修 悪天のため中止

2. 外部山岳諸団体山岳自然保護活動との連携

- ・飯豊連峰保全連絡会第23回会合に出席（6／5）

開催地：関川村村民会館

- ・巻機山

現地調査に参加（7／2）

参加者3名

県自然保護係、南魚沼市商工観光課、施工業者に同行

竜王池（二ノ池）脇登山道ルートを設定

現地保全作業（8／25～26）

竜王池（一ノ池）底泥さらい及び8合目上部裸地への客土
裸地植生復元作業

現地調査に参加（10／2）

今年度県施工工事完了確認、来年度施行箇所確認作業への立会に参加

- ・飯豊連峰景観保全連絡会

幹事会（‘18／12／13）に出席

‘19年度作業計画を決定

現地保全作業に参加（8／31～9／1）

梶川尾根土留め工事、植生復元作業

- ・火打山ライチョウ生息環境調査

生息環境試験区植生調査に参加（ライチョウ平～影火打）

第1回 7/12～14

参加者 新潟県岳協会 3名
群馬県山岳連盟 1名

第2回 8/30～9/1

参加者 2名

今後の活動計画

- ・新潟県自然保護係との懇談会
期日：11月中旬～下旬予定
会場：県庁
- ・H31年度自然保護委員会
期日：11月中旬～下旬予定

以上

三重県山岳・スポーツクライミング連盟

自然保護委員会 2019 活動報告

- 2018 12月 清掃登山（鈴鹿山系・ブナ清水・キノコ岩界限）
研修会（活動について・自然保護的山のうんちくテスト） 14名
- 2019 5月 探鳥山行（野鳥の会三重合同企画） 13名
（鈴鹿山系 朝明溪谷～愛知川 オオルリ、アカゲラ等 17種確認）



7月 三重岳連主催山登りベーシック塾 自然保護講師担当
（津・四日市市2会場・約110名受講）

10-11月 自然保護月間 （各会山行にて清掃登山）

※近年県内各所において森林伐採によるメガソーラー設置が増加。山麓に広がる森林・里山地帯でも同様。地域住民や野鳥の会等、署名活動しても法的拘束力がなければ効果が無いなどの話も聞かれる。



2019年度自然保護委員総会事業報告（兵庫県）

1 報告期間

2019年4月 ～ 2020年3月

2 内容

「自然と歴史山歩（さんぽ）」

六甲山系を中心に地域の身近な山を登り、本県山岳連盟の自然保護委員会役員が案内者兼講師として、山域の自然観察だけでなく、歴史や民俗などをレクチャーしている。また、読図など基本的な登山技術の普及をも図っている。

国立公園である六甲山系登山の時は、環境省アクティブレンジャーにも参加いただいて、指導を受けている。今年度は下記の6回を実施している。

山岳連盟加盟団体だけでなく、一般公募しており、一般の方々の参加もある。これからも内容を一層充実させて、参加者を一層増やし、自然保護活動につとめたい。

本年度実施の計画（実施済も含む）は以下の通り

5月12日 行事名「大山寺の原生林」

6月9日 行事名「逢山峡から有馬温泉」

7月14日 行事名「転法輪寺の原生林」

9月22日 行事名「天下台山から相生湾を眺める」（雨天により中止）

10月20日 行事名「東お多福山の自然」

3月20日 行事名「早春の中山連山縦走」

兵庫県山岳連盟の森

国土交通省と兵庫県との協同事業の「六甲山系グリーンベルト整備事業」に、「森の世話人」として参加、協力している。場所は六甲山地東南麓（神戸市東灘区本山町岡本）で、「兵庫県山岳連盟の森」と名付け、植樹や雑草除去だけでなく、観察コース整備を行っている。

2019年度 自然保護委員会活動報告

鳥取県山岳・スポーツクライミング協会

NO	月 日	活動内容
1	4月8日	大山美化パトロール、頂上碑移設検討会、美化推進役員会 (2名)
2	4月21日	大山一斉清掃約700名 (5名)
3	5月11日	木谷登山口～鳥越峠登山道点検、清掃 (2名)
4	5月16日	登山道整備30名 (ユートピアコース担当 6名、夏山登山道担当 1名)
5	5月18,19日	中国5県自然保護研修会 (3名)
6	5月31日	登山道再整備(ユートピアコース) (3名)
7	6月12日	登山道再整備(ユートピアコース) (3名)
8	6月16日	頂上保全作業(協力;中国電力69名)作業指導 (3名)
9	7月14日	船通山 天然記念物イチイの木周辺及び登山道の草刈り 16名 (2名)
10	7月18日	大山頂上碑移設検討会 (1名)
11	8月13日	大山頂上 植生調査 4名 (1名)
12	8月24日	鏡ヶ成 烏ヶ山登山道点検
13	9月19日	頂上保全作業植栽用苗木採取 ヤマヤナギの苗木110本
14	9月20日	頂上保全作業・・・縦走路 山頂～三角点南壁に植栽
15	10月10日	大山美化パトロール
16	10月20日	秋季大山一斉清掃
17	10月	鏡ヶ成湿原再生作業 予定

5月16日 中宝珠崩落箇所トラロープ取り付け 6月12日 中宝珠土嚢袋6袋追加設置



7月14日船通山山頂付近イチイの草刈り



9月20日自然保護委員が縦走路で使用する
椰子マットや資材を山頂まで運び上げる



9月20日 縦走路の崩壊ヶ所に椰子繊維のコモ伏せ

参加者29名のうち山岳協会から10名が参加
その中で8名のクライミング経験者が縦走路でコモ伏せ
苗木の植栽を行った。
その他、山頂で植物の定点観察、外来種除去を実施
した。



縦走路のコモ伏せ箇所にヤマヤナギの苗木を植栽実施



ヤマヤナギの苗木



2年前に実施した植栽状況



2017年11月 試験的に縦走路南壁の崩壊ヶ所に椰子マット(幅1.1m長さ5m)を使用し植栽を試みた。昨年、今年と経過観察を行ったところ、コモ伏せをした所は崩壊が止まり苗木も約2割ほど定着していた。

効果が確認できたので、大山の頂上を保護する会関係団体(環境省、森林管理署、県、町)に許可と協力をいただき、今年度から自然保護委員会が継続して縦走路の崩壊対策を実施することになった。

今回は、苗木を風で吹き飛ばされたり雨で流されないように今までより深く植えてみた。

第 43 回 山岳自然保護の集い中央大会資料

岡山県山岳・SC 連盟 自然保護委員会 活動報告

令和 1 年 10 月 29 日

岡山県自然保護委員会

1、2019 年度中国五県自然保護研修会参

- 期 日： 2019 年 5 月 18 日（土）～5 月 19 日（日）
開催地： 下関市山岳会 「くるみ小屋」
参加者： 23 名【広島 6 名、鳥取 3 名、岡山 2 名、山口 12 名】
研修内容： 当初予定地の蓋井島は、5 月 19 日の気象情報で渡船の欠航が予想され会場を変更し①フィールドにて研修（鬼ヶ城登山）②小屋にて「蓋井島及び鬼ヶ城の自然と歴史」の講和 ③フィールドにて研修（下関『火の山公園』・『関門海峡トンネル歩き』

2、岡山県自然保護研修会

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------------|-------------|
| 1 目的 | 山の自然保護について研修及び自然観察会 | | |
| 2 実施場所 | 玉野スポーツセンター・深山公園 | | |
| 3 日 時 | 2019 年 11 月 2 日（土）～3 日（日） | | |
| 4 集合時間 | 午後 2 時集合 | | |
| 5 参加費 | 3,000 円（宿泊代） | | |
| 6 日 程 | 11 月 2 日（土） | 14:00 受付 | |
| | | 14:30～16:30 | 自然保護研修 |
| | | 17:00～19:00 | J AM前夜祭・夕食 |
| | | 19:00～21:00 | 親睦・交流会 |
| | | 21:00 | 就寝 |
| | 11 月 3 日（日） | 8:00～9:00 | 起床・朝食・清算 |
| | | 9:00～10:00 | 玉野市みやま公園に移動 |
| | | 10:00～11:30 | 自然観察会 |
| | | 11:30 | 解散 |

3、清掃登山

- 1 目的 登山道整備と清掃
2 実施場所 本宮高倉山登山道の刈り込み
3 日 時 2019 年 11 月 24 日（日） ※雨天順延 12 月 1 日（日）
4 集合場所 本宮高倉山、山頂駐車場
5 集合時間 午前 10 時
7 日 程 11 時 30 分頃には作業終了予定

山岳環境保全に対する広島県山岳・スポーツクライミング連盟の取り組み

(一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟の概要

加盟団体；28団体、 加盟会員数；1,528名（内・個人会員 42名）

(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会の自然保護指導員数； 56名

I、自然保護活動への取り組み

1. (一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟では、活動組織の名称を「自然保護」→「自然環境保全」として取り組んでいる。登山者として自然環境の保全（登山をするフィールドの環境を守る事）に取り組むという意図。
2. これまで、清掃登山・登山道整備・西中国山地の看板立て・山や森の手入れ・「山のお弁当」開発・自然保護指導員研修会・それに伴う環境保全ボランティア活動・山の水場の水質検査（継続的に測定）等を行っている。

II、自然環境保全活動状況（2019年度）

1. 雲月山山焼き（4月13日）
毎年恒例の雲月山山焼きに、8名がボランティアとして参加。
2. 中国地方5県による「中国ブロック」自然保護研修会（5月18、19日）
今年3年目で山口県山岳・スポーツクライミング連盟の担当により、下関市沖合の蓋井島で開催予定だったが、悪天候により本土の「鬼が城山」等で開催。広島県から7名が参加。
3. 第18回ひろしま「山の日」県民の集い（6月2日）
竹原市をメイン会場に県下16市町17会場で一斉実施。各会場では地元会員が山の手入れ等実施。
4. 水質検査（8月）
県内5ヶ所の山岳での水質調査（水温、NH₄、COD、NO₂、NO₃、PO₄、PH、硬度、大腸菌等）を行った。検査は水質パックテストを使用し、簡易的に普及部員で行っている。
山の水は、近年飲料水として使われる事が少なくなったが、環境の変化を見る意味合いとして検査を継続している。
5. 「山のお弁当」
(一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟と広島駅弁（株）が共同開発した「山のお弁当」を広島駅弁（株）が販売。売上金の1%を自然環境基金として、連盟に寄贈。自然環境基金で水質検査キットを購入している。

写真集「岩手山の花と木」(仮称) 編集の取り組み

令和元年11月9日 宮城県石巻市 自然保護委員会総会
岩手県山岳・スポーツクライミング協会登山普及部

1 はじめに

山岳環境、自然環境を守っていくために最も大切なことは、それがかけがえのないものだということを多くの人に理解してもらうことである。こうした考えから当協会では滝沢市から岩手山八合目小屋管理の委託を受け、6月上旬から10月中旬まで管理員を常駐させ、登山者の便宜を図るとともに山岳環境の保全について指導を行ってきた。また、登山者の多い土日には加盟団体による山頂周辺のパトロールを実施している。

さらに子供たちにも郷土の山に親しんでもらうため、“ジュニア登山教室”として小学生親子対象の岩手山登山を実施してきた。

これらに加え昨年から写真集「岩手山の花と木」の出版に向けて取り組んでいる。

2 経過

平成29年10月 登山愛好者から岩手山の花や樹木について素人にもわかりやすい本が欲しいとの声上がる。

平成29年12月 有志で写真集編集に向けて活動開始。

平成30年 2月 高山植物山想会結成(岩手県山岳・スポーツクライミング協会所属)

平成30年 4月 岩手山で写真、情報収集開始(平成30年10月まで約90回現地調査)

平成31年 4月 一次原稿取りまとめ

令和 1年 5月 岩手県山岳・スポーツクライミング協会各加盟団体に協力依頼

令和 1年 6月 岩手県山岳・スポーツクライミング協会登山普及部「岩手山の花と木」第1回編集委員会開催(以降4回編集委員会開催)

以降、編集委員会の方針に基づき追加写真、追加情報収集(令和元年10月まで約40回現地調査)

令和 1年11月 二次原稿取りまとめ

3 編集方針

- それぞれの植物の魅力を写真と文章で伝え、いつどこに行けばそれが見られるかをおおまかに示し、山に足を向ける契機となるような本とする。
- 植物の専門的知識を持たない人にも読んでいただけるよう、専門用語や分類上の細かい記述をできるだけ避ける。また、分類は種レベルまでとし、亜種、品種、変種の区別は原則取り上げない。
- 植生は気象、浸食崩壊、外来種、人為の侵入等で刻々変化しており、これが繊細なも

のであることを伝える配慮をする。

- ・岩手山植生の現状についての記録的な意味をもたせるため、記述の正確性を期す。

4 本の構成

はじめに

第1章 登山道

1 登山道の区分け

2 区間概要と見所

第2章 花ごよみ

第3章 花

第4章 樹木

参考文献

掲載種 花213種 樹木22種

5 まとめ

やっと2次原稿の作成まで漕ぎつけた。

不備な点が多いが、これから内容の確認、文章校正を重ねたうえで県協会80周年にあわせ、来年度発行にこぎつけたい。

編集委員を始めとした関係者がこれを契機に岩手山への理解をさらに深めたこと、それ自体が最大の成果と考える。

山梨県山岳連盟・自然保護委員会活動

令和元年11月⁹日(土)

自然保護委員会 委員長 磯野澄也

令和元年度の委員会活動方針として①山岳レインジャー活動を通じ、より高山植物への知識向上と保護活動に取り組む ②各種団体と連携し自然保護に関する課題に取り組み、山梨県の自然保全に寄与する の2点を掲げました。方針をもとに、

自然保護委員会

今年度の自然保護委員会組織は、岳連役員5名、自然保護に興味ある委員43名、役員は委員長・副委員長2名・高山植物参与2名で構成される。原則奇数月最終水曜日に定期的に開催され、10月30日には98回を数え、毎回20～30名集まり、活発に議論される。山梨大学・山梨学院大の若手の積極的参加は大変嬉しい。



自然保護委員会

山岳レインジャー研修会

山岳レインジャー活動

委員会の主活動であり、例年2月に各会レインジャー募集、それを受け3月にはレインジャー配置計画会議、4月には事前にテキストを作成、山岳レインジャー研修会を2回開催し、延べ102名が受講頂いた。5月の総会時には各会へ調査書類を配布し、18会+委員会、登録153名にて9月までレインジャー活動を実施した。規定では1泊2日で48隊(昨年より9隊減)192人であるが、近年は各会活発な調査活動により、延べ参加人員は400人を超える。調査対象種は本年より特定種18種から24種と増になった。

10月から纏め作業に入るが、これが結構大変な労力で、12月頃報告書として提出する。平成20年新条例より12年経過し、報告書では特定種の分布がほぼ確定してきており、また地球温暖化による影響等が見え、大きな成果が上がっている。

高山植物への知識向上と保護活動

新条例は従来のパトロール業務より絶滅危惧種の調査活動に変わり、より専門性が要求された。これを受け徹底した研修会の実施、高山植物学習会は今年度も5回開催し、通算48回を

数えた。これらも後押しし、高山植物に対する興味・知識は高まり、親しむ山行も多くなってきている。これらにより、山梨岳連の高山植物への知識力は大変レベルが高い位置にあると言える。近年では指定特定種のみならず、山梨県レッドデータブックによる同等の絶滅危惧種までの調査報告やこれらに関する保護活動に関心が高まり、委員会でも活発に論議されている。より掘り下げ、知識向上と保護活動に取り組んでいきたい。



高山植物学習会

三ツ峠防鹿柵設置支援活動

各種団体と連携し自然保護課題に取り組む

7月、県みどり自然課及び国の関係者と共に八ヶ岳において、全国的にも珍しく山梨では観測されなかった絶滅危惧種の新発見に伴う学術調査に参加した。9月には三ツ峠ネットワークの防鹿柵設置協力を延べ7名参加した。11月には第44回山岳自然保護の集いに4名参加し、全国各県との情報交換に努める。自然保護は諸団体でそれぞれ活動しているが、今後より効果を上げるため行政及び各種団体との連携強化にて、より保護・保全に前向きに寄与して行きたい。

より山岳環境改善として、次の2点を提案したい。

- ①山岳トイレは整備費・維持管理費が莫大にかかるため、より快適に充実化を図りその価値に対し曖昧なチップ制は取りやめ、小銭持ち料金制として世論に広報浸透すべき
- ②年々増加傾向の登山者の安全に対し、主要山小屋には天候不順時の荒天時対策として登山者が雨宿りできる上屋等の整備に助成金等支援すべき

里山の自然に親しむ

身近の里山でも自然界に身を浸すと小さな発見とドラマがある。近年、心身共に健康増進を目的に自然に親しむ人が増加している。身延町：下部温泉前にある醍醐山は標高634m（近年の改定で635m）で荒れ果てた里山を整備し、東京スカイツリー開業と共に山のスカイツリー「山と温泉」として世に売り出し7年を経過した。標高差400mの山は誰でも気軽に登山でき多くの方々が来訪された。これを支援する組織「醍醐山を愛する会」は「進化する山」と捉え、毎年春・秋の一斉登山の他、多種多様な活動により人の繋がりが拡大し、過疎の町に明るい話題を提供している。これらの活動は「醍醐山と下部温泉」ブログ：楽天・フェイスブックにて毎日更新し発信している。